

国崎二船祭プログラム

・事後学習(予定)

・祭礼当日収録されたテレビ番組視聴

・実施主体から御礼のお守りを授与される

・レポート作成
・祭礼参加

・これまでの活動について学習

・実施主体との打合せ

・事前学習

・祭礼の実施が決定

2017

9

10

11

12

1

3

◆今年度の活動を振り返って(成果と課題)

国崎は、倭姫命とゆかりがある土地である。倭姫命は海女から受け取った鰻を食べるとあまりの美味しさに感動し、それ以来伊勢神宮には熨斗鰻が献上されるようになったと伝えられる。

「前の浜」で行われる祭礼「二船祭」は、海間谷と里谷の2地区に分かれた国崎の若者たちが2隻の船に乗り込み、その早さを競う。5～6回往復し競争神事が行われ勝敗を決める。海間谷が勝つとイワシ、里谷が勝つとボラが大漁と言われており、海の幸の豊漁を願う勇壮な祭りである。

この祭礼の存続について考えることを糸口に、地域の課題を発見していくことを鳥羽市役所の橋本氏にレクチャーしてもらうことができた。

実際に漕ぎ手として参加した2人を始め、参加学生は町内の人々の祭礼に対する思いを実感することができた。

祭礼の関連行事の簡素化と祭礼の継続の両立をどのように図っているのかを町内会とかかわりながら観察していきたいが、現地への交通手段が限られていることが課題である。



特にアピールしたいポイント

若者の減少により神事が行えない状況に我々皇學館大学生が参加し、存続できることはとても喜ばしいことだと実感できた。今後とも我々のように地域イベントの存続に携われるように、後輩たちへと面白く楽しい活動だったと伝えることをしたい。



実施主体様の声

本年度もありがとうございました。お礼として海士潜女神社のお守りとあわびの貝殻を差し上げます。来年度以降も祭礼の実施について住民と調整しながら検討していきますので、よろしく願います。



(東海テレビの取材)



(漕ぎ方の指導を受ける)



(神の島での神事)



(町の人たちから声援を受ける)



(組に分かれる)



(競漕を見守る町内会長)



(競漕の様子。手前が里谷、奥が海間谷。)

活動実施主体:鳥羽市国崎町町内会
担当教員:齋藤 平(教育開発センター)